

## 奥地建産株式会社様の事例

<b>BCMS の登録範囲</b>
建築用鋼製下地材及び太陽光発電用架台の製造
<b>BCMS を構築したきっかけと目的</b>
<p>2009 年 7 月中国地方と九州地方で記録的な豪雨が発生した。死者 31 名、負傷者 59 名(平成 22 年 3 月消防庁)という大きな被害であった。その際に顧客である大手住宅メーカーの関連会社が被災。設備が水没し供給不可となったため当社に応援要請があり、当社から代替品を緊急出荷した。この災害をきっかけに顧客より非公式なリスクマネジメントが来るようになった。2010 年夏には公式に災害時の初動体制の構築を依頼された。また従来から、オンリーワン製品を供給していたため、社内には「納期厳守」の社風があり、リスクマネジメントに対する意識は高かった。前述の外部からの要請、内部意識の高さからリスクマネジメントの必要性を感じ、BCMS の導入を決めた。</p>
<b>BCMS に取組んで改善されたこと(事業継続戦略の実行状況、認証取得のメリットなど)</b>
<p>以前から、各種インシデント(自然災害、新型インフルエンザ等)に対して積極的に取り組み、文化として一定の定着がみられたが、網羅的、体系的な取り組みにはなっていなかった。マネジメントシステムとして取り組む事で網羅的、体系的な取り組みとなり、PDCA を回しスパイラルアップできる仕組みが構築できた。また BCMS に意識の高い顧客からは関心を得、信用を増すことができた。具体的事例)顧客が災害時初動体制訓練を企画。BCMS で培ったノウハウをもとに追加シナリオを作成し参加した結果、以下のお言葉を頂いた。「いつもたいへんお世話になります。災害初動体制訓練へのご参加、誠にありがとうございます。初級編の内容にもかかわらず、訓練シナリオ + 参加要領まで追加作成いただいたの参加ということで、感謝いたします。災害準備対策アンケートを見させていただくと、さすがというべき準備状況で、ただただ頭が下がります。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。」</p>
<b>BCMS 構築・運用を通して気付いたこと(目標復旧時間達成状況[実践や演習などを通じた]についても)</b>
<p>B S 25999-2、ISO22301 への規格適合を主にシステムを構築してきた。そのためプロセスの切り分けが曖昧で実務面での有効性の面からの見直しが必要である。システム全体のブラッシュアップが必要</p>
<b>BCMS を構築した時に苦労したところ</b>
<p>中小企業としての取り組み事例が少ないため、全てが手探りでの構築であった。BIA シートを作成するのにも一度作成したものに修正を重ねた結果、最初に戻るといような行きつ戻りつの作業であった。</p>
<b>東日本大震災やタイ洪水など、実際の脅威が発生した際に BCMS を構築・運用していたおかげで助かった点や課題</b>
<p>東日本大震災では直接的な被害はうけなかったが、サプライチェーンが被害を受けた。災害対策本部がスムーズに立ち上がり、初期段階での情報が一元化され、情報共有が円滑に行われた。そのため顧客への被害状況の報告も早い段階ででき「奥地さんが一番はやかった」とお褒めのお言葉を頂いた。</p>

**組織(経営)戦略実現のための、事業継続の位置付け**

BCMSは中長期の経営計画達成のために、QMS・EMSとともにベースとなりエンジンの役割を果たす仕組みの一つ。

**BCMSを取得してよかったところ、他者にBCMSをお勧めするとすればどういうところが良い点か**

顧客からの信頼を得られたこと。また社内の中でBCMS的な視点、考え方が芽生え、問題点を共有できるようになった。災害時には社員が自主的、自立的に行動ができ早期復旧が達成できる。  
またBCMの問題点を議論する中で「真因」としての問題点が見えはじめ、有意義な議論につながるものがしばしばあった。これは他のマネジメントシステムではあまり経験しなかった点である。

**BCMS規格に対する問題点・改善提案**

用語そのものの意味の理解がしにくく悩ましい。意図するところの意味を分かりやすく表現すれば、規格全体が理解しやすくなるのでは。